

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部 「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2016 年 12 月号 (第 100 号)

発行責任者 稲村 洋二



「野老澤の歴史をたのしむ会」鎌倉街道を歩く 本興寺参道 (横浜市泉区) 池田 衛/撮影

第 10 期 ところざわ倶楽部 活動方針

～ みんなの力で 3 事業の成功へ！ ～

会長 稲村 洋二



10 期のところざわ倶楽部の活動方針は 9 期に決めた 10 周年記念事業企画の ①「生涯学習シンポジウム」の開催 ②「サークルの 10 年史」の発行 ③「ハーメルンの笛吹きおとこ」の公演の 3 事業それぞれ実行

委員会を結成して進めていくことがその中核となります。

3 事業を円滑に進めるためには 10 期の理事会のメンバーだけでは不可能です。従って実行委員会のメンバーは 10 期理事と理事以外の会員の皆様で構成したいと思います。会員の皆様には是非メンバーとして参加していただき倶楽部全体としてこの事業を成し遂げたいと考えています。

一方、従来から倶楽部が主催していた新入会員歓迎の新春の集い、連続文芸講座、サークル活動発表会については引き続き実施していきます。特に、9 期で初めて行った「サークル活動発表会」はサークル間の交

流を図る意味で大変有意義であったと考えています。

また、この発表会に出席した市民大学受講生は倶楽部のサークル活動がどのようなものかわからなかったが今回の発表会で内容がよくわかったという評価をいただいています。

10 期の詳しい活動計画は事業部・広報部の内容を参照してください。

文化祭については「生涯学習シンポジウム」の開催時期と重なりますので 10 期は中止といたします。

倶楽部はサークルで構成され、それぞれが別個に活動しています。そういう点から会員相互の連帯感が薄いという批判がありますが、会員の皆様が一同に会する場所は倶楽部が主催する事業であり、従って主催する事業には会員の皆様が集う場所としての役割があります。

主旨をご理解していただき、是非積極的に参加いただきたいと思ひます。

第10期 定期総会報告

総務部長 石堂 智士

本総会は、会則の一部改定の審議承認と、発足後10年という節目の総会で、会場はミューズ管理棟5階で行った。23期新入会員13名と一般市民の新入会員2名を含む114名の出席の下、11月22日(火)に開催された。

稲村会長の総括では、9期総会で掲げた3つの指針(①あり方の検討 ②10周年記念事業検討 ③サークル活動発表会)について検討し、会則の一部改定と「生涯学習シンポジウム」の開催、「サークルの歩み」の発行、朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」の公演が提案され理事会で承認された。

サークル活動発表会は4サークルの協力で地域貢献の姿を示した内容で、今後のサークル活動に更なる期待を抱かせる報告があった。

また、市民大学との連携においては、各サークル

の定例会への参加呼びかけ、23期市民大学生への勧誘説明会では3つのサークル代表より具体的な活動を紹介する報告があった。

その後、各部長報告や会計報告及び監査報告があり、第9期ところざわ倶楽部の活動報告は、全員一致で承認された。

第10期活動方針の発表前に新任理事候補の紹介及び承認があり、また、退任される理事9名と会計監査1名を紹介し、感謝の言葉が述べられた。

引き続き、稲村会長が第10期ところざわ倶楽部活動方針を発表し、その後、各部より会則の一部改定(案)、第10期事業活動計画、広報活動計画、予算案の説明があった。その後質問を受け、稲村会長から5つの質問について回答した後、全員の拍手で議案が承認され総会は終了した。

第10期 新体制

～ 皆様のご支援よろしくお願いたします ～

役職	氏名	出身母体	役職	氏名	出身母体
会長	稲村 洋二	理事会推薦	事業部担当理事	加藤 敏恭	楽悠クラブ
副会長兼総務部長	石堂 智士	傍聴席	事業部担当理事	吉田 麗	食を通して所沢を知る会
副会長兼事業部長	佐藤 重松	活いききシニア福祉の会	事業部担当理事	安田 好子	野老澤の歴史をたのしむ会
副会長兼広報部長	海老澤愛之助	地域の自然を考える会	事業部担当理事	高瀬 成一	脳活サークル
総務副部長	中原 幹男	所沢の自然と農業	事業部担当理事	井上 守	懐かしの映画・鑑賞会
総務担当理事	曾部 康子	理事会推薦	事業部担当理事	池上 幹彦	所沢シニア世代地域デビュ
総務部担当理事	佐藤美津子	民話の会	広報部副部長	玉上 佳彦	アジア研究会
総務部担当理事	大越 理恵	葵の会	広報部担当理事	中島 峯生	地球環境に学ぶ
総務部担当理事	内田 滋男	歴史散策クラブ	広報部担当理事	西郡 貢	理事会推薦
事業部副部長	森野 辰夫	北欧の会	会計監査	田村健一郎	理事会推薦
事業部担当理事	岡部まさ子	ドラマティックカンパニー	会計監査	小野さとえ	理事会推薦

11月度 理事会報告 11月14日(月)開催

1. 会長挨拶

倶楽部創立者たちと意見交換を行った
23期市民大学修了生の倶楽部入会者は25名
3OB会全体で35名

2. 総務部案件

- 1) 新旧理事交代は退任10人、新任7人
- 2) 総会資料・会計報告並びに予算案説明し承認
- 3) 総会・懇親会の要領説明

3. 事業部案件

- 1) 総会・懇親会の運営説明
- 2) 新入会員歓迎「新春の集い」開催の説明
日時：平成29年1月27日(金)午後1時
会場：航空公園内 茶室「彩翔亭」

4. 広報部案件

- 1) 広場11月号発行説明、12月号編成案説明
- 2) メールアドレス変更は玉上・中原へ連絡を

事業部活動方針

事業部長 佐藤 重松

1. 活動方針

市民大学修了後も会員の皆様が、こよなく生涯学習を標榜し、ところざわ倶楽部でのサークル活動と各種の講演や講座をはじめとし、「倶楽部全体の交流と親睦」を楽しみ深められる10期の活動とする。

創立10周年を機に、従来の取り組みを踏襲しながら、10年前とは時代背景も人口構造も大変な変化をもたらし、超高齢社会のど真ん中に倶楽部会員は位置している。その現実を踏まえ、「加齢に伴う課題」と「楽しく齢を重ねていく」知恵の創出の礎となるような取り組みと推進を行う。

2. 活動計画

1) 新入会員歓迎会

新旧会員の交流を深めるために会員限定の「新春の集い」を開催する。

2) 10周年記念行事の一環として「生涯学習シンポジウム」を開催する。

3) 公開文芸連続講座

有料講座とし、会員と一般の方を対象に開催する。

4) サークル活動発表会

従来、各サークルの活動内容が倶楽部会員に十分に共有されていませんでした。今期も開催しサークル間の相互理解を深める。

5) 10周年記念事業の企画

9月、ミューズにて、特別会員の音楽家 笠松泰洋先生が作曲・台本を担当される音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」の公演を企画しました。

6) 第11期総会と懇親会開催

平成29年度 事業計画

月	概要
1月27日	「新春の集い」新会員歓迎(彩翔亭)
5月29日	10周年記念シンポジウム・懇親会
7月	公開文芸4回連続講座(有料)
7月	第2回サークル発表会(4サークル)
9月18日	朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」公演
11月	第11期総会・懇親会

*各事業の詳細は「広場」HPでお知らせします。

広報部活動方針

広報部長 海老澤愛之助

1. 活動方針

ところざわ倶楽部の理念である、①学習活動の継続 ②会員相互の親睦 ③学びを地域に生かす ④ネットワークづくりを念頭に置き、「広場」HPの編集活動に当たる。

2. 編集体制の強化

1) 編集体制は今まで14期から17期の修了者が中心に行ってきたが、今期は18期以降のスタッフにも参加いただき取材活動を行う。

2) 9期で行っていた広報担当者会議を見直し、理事会で情報提供と協力を仰ぐことにより各サークルと広報部との連携をより深める。

3. 広報紙「広場」

1) 従来通り8頁編成とし、年11回(8月休刊)発行する。

2) 新入会員紹介と24期市民大学生へ会員勧誘のための特別号を発行する。

4. ホームページ

会員のみならず広く一般の方々に、倶楽部・サークルの様々な活動を発信し鮮度のある情報を提供する。

第10期編集委員紹介

氏名	担当
稲村 洋二	倶楽部会長・発行責任者
海老澤愛之助	広報部長・編集長
玉上 佳彦	広報副部長・HP担当
中島 峯生	広報部理事
西郡 貢	広報部理事
池田新八郎	企画編集担当
島川 謙二	企画編集担当
当麻 実	企画編集担当
仲山 富夫	企画編集担当
八木 雅子	企画編集・庶務担当
新井 智子	企画編集・庶務担当

「広場」100号に想う

「広場」創刊のころ

初代広報部長 平栗 彰子



ところざわ倶楽部広報紙「広場」が今年12月で100号までこぎつけたことを大変嬉しく思います。創刊号発行からの歳月を思うと感無量です。

ところざわ倶楽部発足のときに、総務部、事業部などと共に広報も是非会の一翼を担いたいと思い、「市民大学だより」の片隅をお借りして始めることになりました。

広報紙の名前は、みなが集い、つながりをお確かめあえる場となるようにとの思いをこめて「広場」といたしました。この頃は「青年の家」の跡の施設を利用した「学習センター」が「ところざわ倶楽部」の活動場所でした。社会教育課の職員でいらした細山俊男さんと田中和子さんには、広報紙発刊についても大変お世話になりました。ワープロがやっとの分際で広報紙の編集など、おこがましいことでしたが、細山さんが手取り足取り教えてください、とりあえず「市民大学だより」の最後の1ページをいただいて、第1号が日の目を見ました。

当時の佐藤八郎会長が巻頭のご挨拶文を書かれ、まずはお知らせ記事を中心に、サークル活動の予定などを掲載しました。会員からの投稿はまだ載せる余裕がありませんでしたが、島川謙二さんの「一寸庵閑話」コラムは「シェイクしたビア」を飲みながら快調な滑り出しでした。当時はメール配信システムはなく、会報を会員に郵送する作業に矢野早智子さんとかなり時間をかけました。

組織としては市民大学から「はばたく」パワーであるはずですから、広報だけいつまでも間借りという訳に行かず、約1年後の12号からページ数も増やして自立の道を歩き始めます。その道のプロである池田新八郎さんがお仲間に加わり、編集から発行までのすべてを伝授いただけると、大変楽しみでした。清水仁一さんにも一つの道を全うするという姿勢を教えてくださいました。

第1号の巻頭で佐藤八郎さんが述べていらした「学びの力を地域へ」というテーマが、今もこの先も倶楽部に生きていくことを願っています。

「広場」100号に想う

「広場」との付き合い

第2・3期広報部長 清水 仁一



2008年10月に市民大学15期を修了し、ところざわ倶楽部に入会しました。倶楽部では、市民大学の機関誌（市民大学だより）編集委員の先輩が広報部長を担当しており、そのまま、広報部長を引き継ぐ事になったのが、広場との付き合いの始まりでした。

先輩たちの思いもあり、2008年12月号からは、「市民大学だより（現在の市民大学通信）」の最終頁のみの間借り掲載から、独立して2頁紙面で発行することになりました。

その後、倶楽部の充実に伴い、2009年2月からは4頁に、2010年1月からは6頁に拡大して来ました。頁数の拡大に伴う、新たな企画と投稿者探し、原稿集めと広報部の一番忙しかった時期でもありましたが、広場の内容充実論議が理事会での諸論議の広がりにつながった時期でもありました。

一方、苦勞したのが広場の印刷、配布でした。当初は、生涯学習推進センターの専用棚に印刷したものを置き、サークルリーダーが引き取ってサークル内に配布をしていましたが、時期遅れや配布漏れなどが問題となり、大事な広報紙なので確実に届く様、郵送することにしました。

多い時は会員から市民大学受講生、講師、行政など500部以上を印刷、折り込み、郵送を行っていましたが、2010年1月号から、手間と経費節減の両面からインターネット配信を導入し、大幅に作業が軽減されました。

2期、3期の広場との付き合いは、拡大、配布に追われた忙しい思い出が殆どですが、倶楽部の発展過程を広場と共に経験できたのは良い思い出となっております。その後、後輩の皆さんの努力で、編集委員体制や紙面も充実し、ホームページも立ちあがるなど、努力に感謝しつつ、楽しませていただいております。

「広場」100号に想う

「一寸庵閑話」ものがたり

ケン・シェイクスピア

▼情報の発信と充電



「広場」第1号を開くと、「ケン・シェイクスピア」による「一寸庵閑話」が200字ほど可愛く登場しています。

平栗編集長から「ちょっと軽い風刺のきいたエッセイ、コラムを書いてみない？」という「お誘い」にのった結果です。

私は「一寸庵閑話」を3回シリーズで、1回目が1~15号(2回休み)、2回目が37~45号、3回目が74~81号で実に30回の連載です。3回目は8代会長の「一人が連載で紙面を占有するのは良くない」という方針により2015年3月で中止になりました。

その年に実施された倶楽部会員アンケートで読みたい記事に「一寸庵閑話」を挙げた会員が数名おられたこと、会った時やメールで「読んでます。今後よろしく」といわれたことを筆者としてありがたく思っています。

▼「一寸庵閑話」シリーズの概略

1号では「笑いが健康によいこと」のほか、「千利休の辞世の言葉は『コーヒーが飲みたい』であった」とか、「ガンジーは『ステーキが食べたい』と言った」などと勝手に書いています。4号では粹な「江戸しぐさ」が失われている現在の日本を憂い、5号で堀田善衛著『インドで考えたこと』と特別会員だった故藤田博司先生の「日本が悪くなっている」を紹介。6号で「サスティナブル都市ランキング」で所沢は10位で、1位は三鷹市、2位は武蔵野市と紹介。7号では所沢駅前の1等地ビルの新テナントにパチンコ屋が入った侘しさを書き、8号では気骨の人・城山三郎を、12号で2ページ体制になって250字に増え、会員増加は諸刃の剣になると警告。13号では倶楽部のアイデンティティとは？と問いかけ、14号で4ページ体制になり400字へ、オバマの就任と麻生内閣の政治の貧困に言及。15号で所沢市の財政状態に危機感を書きました。

以上が第1回シリーズの概要です。「広場」のページ増に伴って「一寸庵閑話」も字数が増えています。いろいろな話題を元気にタイムリーに取り上げている感じが、文章の調子にもありますね。21号から6ページ体制になります。

第2回シリーズの38号は600字で東日本大震災を受け幸田露伴の言葉「天災は忘れた頃にやってくる

る」を紹介。39号では中央公民館がウォシュレットではないことを「行政の貧困」と嘆き、オープンした新所沢公民館のウォシュレットに喝采しています。43号から「広場」は現在と同じ8ページ体制になりました。

第3回シリーズの74号は900字。なぜシェイクスピアでなくシェイクスピアか、と拘りを書いています。76号では、まとまり、つながり、広がり組織のカギであることを。77号では自主性の高度化を、78号では倶楽部とは？と問いつづけば、79号では、すべての原点としての「にんげん」、81号ではアベノミクスを批判するピケティ教授の「格差社会の是正」をバルザックの「ゴリオ爺さん」とともに紹介しました。

3回目シリーズは字数がぐんと増えたためか、真面目な論調が多く、1回目のような軽妙なタッチの「一寸庵閑話」でなくなったかなと思います。

▼表現の場として

私は「一寸庵閑話」のほかにも65号で「こんな事あんな事」シリーズのトップバッターを務め、69号で「マロの健康法」を、84号で「出会い」シリーズのトップも書きました。一方、57号の「巻頭言」も真面目に書くので、私の硬軟を合わせもつ2面性に驚く友人もいます。

今までの100号で印象に残っている作品を3つ独断で勝手にあげますと①68号「私の健康法」岡本詔一郎さんの「病院に努めて行かない」②75号「こんな事 あんな事」高羅慶子さんの「ゴリラが好き」③98号「私にとっての昭和」田淵喜代子さんの「変わりゆく所沢と共に」です。その人らしさが強烈に豊かに表現されて素晴らしいと思います。

▼ケネディの言葉と共に

ケネディは1961年の大統領就任の名演説で「祖国があなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが祖国に何ができるかを問うて欲しい」とアメリカ国民に呼びかけました。私は57号で、このケネディの演説を引用し「祖国をとところざわ倶楽部に置き換えて考えよう」と書きました。それができない者、その意欲のない者は「ところざわ倶楽部」を去るしかないのです。倶楽部とは本来会員制のサロン(社交場)であり、楽しく雑談し情報交換し友人の輪を広げる場所でありますから。

シェイクスピアの面白さについて

作曲家 笠松 泰洋



まず、第 100 号の「広場」おめでとうございます。この記念すべき号に寄稿を依頼されたことを感謝致します。

私は、ところざわ倶楽

部のドラマティック・カンパニーで、かれこれ 8 年、ずっとシェイクスピアの講読を行ってきました。

ここ数年は、市民大学では専門の音楽、特にオペラなどについての講義が多かったので、どうして作曲家の私がシェイクスピア？と思う方もいらっしゃると思います。今年亡くなった蜷川幸雄さんの演出の舞台のスタッフとして、彩の国さいたま芸術劇場の蜷川さんのシェイクスピア全作品上演プログラムに初回から参加して、かなりの数のシェイクスピア作品の音楽を作り、稽古場から上演に至るまでシェイクスピア漬けの生活を長く送っていました。

蜷川さん以外の演出家の方々とも、シェイクスピア作品を作り、今年 10、11 月にも青木 豪さんの演出で『お気に召すまま』を上演したところです。

そういったこともあり、また、大学は文学部で、小田島先生をはじめとして、錚々たる演劇を専門とする先生方について学んだこともあり、僭越ながら、シェイクスピアの講読、そして朗読劇化を、演劇人としてところざわ倶楽部で行ってきました。

シェイクスピアは、やればやるほど、知れば知る程、奥が深くなる作品です。そして、その面白さの本質はどこから来るのか、それをずっと考えて読み、そして音楽を作り続けてきています。今日はここで、その中で最も大きなことだと思ふところをお話します。

シェイクスピアの最大の特徴は、両方向的な視点です。例えば、『ヴェニスの商人』という有名な作品をとってみましょう。この作品は、強欲なユダヤ人の商人が、キリスト教徒に怨みをいだき、ヴェニスの街で最も成功し尊敬されているヴェニスの商人アントーニオを陥れ、それを、アントーニオの友人のバサーニオの婚約者の聡明なポーシャが男装して裁判官として登場し、お金の返済が遅れたことに対する対価としての「胸の肉 1 ポンドを差し出す」という契約の実行を認めながらも、その証文には、

血を差し出すとは書かれていない、ということ指摘して、「キリスト教徒の血は一滴たりとも流してはならない」という判決を突きつけ、ユダヤ人シャイロックの企みを阻止してアントーニオを救う、という話です。強欲なユダヤ人が敗北して善良な（友人を救うためにユダヤ人から借金した）キリスト教徒が助かる、という話です。

シェイクスピアが活躍した 17 世紀初頭は、まだまだキリスト教が絶大な権威と勢力を持っており、キリスト教に逆らってヨーロッパで生きることは不可能でした。あまり知られてはいませんが、ローマ教会から異端と見なされたプラトンの後継者プロチヌスを研究するギリシャ哲学の一派は、バクダッドに亡命し、そこで研究を続けています。ギリシャ哲学がヨーロッパで学問の中心とされたのは、ローマ教会が、アリストテレスとプラトンは否定せず、特にアリストテレスを推奨したのが大きな要因です。

ところが、じっくりと『ヴェニスの商人』を読むと、憎まれ役のシャイロックは、そのユダヤ人の立場から、キリスト教徒が、いかに非人間的なしうちをユダヤ人に繰り返しているかを、綿々と語らせるのです。「おれたちの手を切れば、赤い血が流れる。お前達も同じだろう。なら、俺たちは同じ人間ではないのか？」といった旨のことを彼は主張します。表向きは、あくまで、強欲な悪人という立場の人間が、これを語ります。これこそ、シェイクスピアが、この時代に物を申す巧妙な方法だと私には思えます。社会の敵役に正論を吐かせるのです。

同様に、タイタス・アンドロニカスという作品の中でも、野心的な若い黒人のエアロンは宣言します。「黒は美しい色なのだ。白鳥の足を見るがいい。あの黒は、いくら水で洗っても黒いままなのだ」シェイクスピアは、最も差別されている人の視点で社会を見て、そちら側の視線からの言葉を堂々と投げかけているのです。

これこそが、シェイクスピアの本音だったと私には思えるのです。一見、社会の常識の内側にいるように見せかけ、逆側から読むと、社会の裏側が明確に露見する、という合わせ鏡のような世界がシェイクスピアの世界なのです。そしてそこには、人間の傲慢さを戒める鋭い目が光っているのです。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

1. 葵の会 (池田新八郎 2940-0711)
 12月15日(木) 13:30~16:00 中央公民館
 古典講座「太平記」第4回(最終回) 講師:川上義正先生
 1月12日(木) 10:00~12:00 中央公民館
 歌舞伎DVD新春鑑賞会、終了後総会、新年会開催予定

2. アジア研究会 (玉上 佳彦 090-2497-1076)
 12月21日(水) 15:00~ 中央公民館 学習室 8,9号
 定例会:アジア研究会総会、来期打合せ
 福田晴男氏のタイ近況報告、17:00より忘年会
 1月18日(水) 定例会 内容未定

3. 活いきシニア福祉の会(佐藤 重松 090-5412-5760)
 12月21日(水) 9:30~12:00 生涯学習推進センター
 * 倶楽部10期の中で、サークルの活動計画について
 * 23期新会員(9名)歓迎会&座談会

4. 楽悠クラブ (福田 晴男 事前連絡は不要です)
 12月13日(火)13:15~① 総会 ② パレエ「くろみ割り人形
 (チャイコフスキー)」指揮:ワレリーゲルギエフ
 2011年12月マリンスキー劇場
 1月17日(火)13:15~ ① 例会(鑑賞演目は12月例会時
 に決定) ② 新年会 いずれも中央公民館8・9学習室

5. 食を通して所沢を知る会 (吉田 麗 2939-9662)
 12月6日(火) 10:00~12:00 ふらっと 定例会
 * 玉上佳彦氏講演「サプリメント・健康食品を考える」を行う。
 関心のある方は是非ご参加下さい。
 1月24日(火) 10:00~12:00 ふらっと 定例会

6. 地域の自然を考える会 (海老澤愛之助 2922-0259)
 12月の定例会は、休会にします。
 11月のトコふるさと基金「収穫祭」への参加は、クロスケの家
 に140名ほどが集い楽しい時間を過ごすことが出来ました。
 来年1月には、新年会を予定いたします。

7. 地球環境に学ぶ (塚本 二郎 2942-3117)
 12月20日(火) 9:00~11:00 柳瀬公民館 定例会
 年度計画の話合い、DVD鑑賞他。
 1月17日(火) 9:00~柳瀬公民館の予定。
 2月からは新所沢東公民館に戻ります。

8. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会(田口 元也 090-9820-5668)
 12月21日(水) 13:00~15:00 中央公民館 1階学習室
 定例会 議題 「なんでも塾2回」企画検討
 地域デビューに向けた取り組みについて
 チアダンス練習日:12月10、24日 生涯学習センター

9. 所沢の自然と農業 (清水 仁一 2944-8835)
 12月18日(日) 10:00~ くぬぎ山・駒が原の森 保全活動
 12月22日(木) 9:00~ 陽子ファーム 落ち葉掃き準備
 1月7日(土) 9:00~ 陽子ファーム 落ち葉掃き開催
 1月12日(木)13:00~ 新所沢公民館 定例会

10. 野老澤の歴史をたのしむ会 (大山 豊 2993-0818)
 12月15日(木) 中央公民館 総会を開きます。
 また、パワーポイントを使用して1年間の野外及び座学な
 どの活動を具体的に表現してゆきます。

11. ドラマティック・カンパニー (柳澤千賀子 2968-5035)
 12月17日(土) 9:30~11:30 中央公民館
 定例会のあと忘年会を予定しています。
 1月7日(土) 10:00~12:00 中央公民館
 1月21日(土) 10:00~12:00 中央公民館
 「コロレイナス」という作品を読み進めます。

12. 懐かしの映画・鑑賞会 (二上 拓夫 080-1250-6151)
 12月13日(火) 10:00~12:30 西新井町公民館
 ■邦画「最後の忠臣蔵」10年(H22年)別所 ワーナー
 H29年新春の上映会
 1月24日(火) 10:00~12:30 西新井町公民館
 ■喜劇「男はつらいよ」夢枕 '72年 八千草薫 他

13. 脳活サークル (加曾利厚雄 2939-2308)
 12月19日(月)10:00~15:30 (受付9:30~)
 於ところ荘 集会室
 笑いヨガ・脳活なる替え歌・ハワイアン演奏と年忘れ会
 協賛・とことこバンド

14. 北欧の会 (樋口 俊夫 090-6483-7993)
 12月は休会
 1月24日(火)14:00~16:00 松井公民館
 第73回例会 持ち寄り学習 DVD観賞 他

15. 傍聴席 (高垣 輝雄 2926-7164)
 12月19日(月)学習会、14:00~ 中央公民館
 テーマ:今年の学習の反省と自由討議
 1年を振り返って学習活動の反省と復習・確認などを行
 います。(詳細は倶楽部のHPをご覧ください)

16. 民話の会 (仲山 富夫 090-3902-0283)
 12月16日(金) 10:00~12:30 新所沢公民館
 定例会・昼食会、午後「ひばり児童館」にて打合せ
 12月20日(火) 「ひばり児童館」で民話を語る会
 1月20日(金) 10:00~12:30 中央公民館

17. 歴史散策クラブ (大河原 功 2943-2004)
 12月17日(土) 15:00 但し、班長、会計は14:00 集合
 小手指公民館分館於 総会&忘年会
 1月7日(土) 所沢駅2階改札内集合(時間別途)
 上野・徳川將軍ゆかりの史跡を巡る

広報部

1月6日(金) 9:30~ 生涯学習推進センター101号室
 「広場」1月号 編集会議・発行日
 2月10日(金) 9:30~ 生涯学習推進センター
 「広場」2月号 編集会議・発行日



【私の健康法 第42回】 日々のウォーキングで健康管理

傍聴席 長岡 慶一

30 年位前に書店でゴルフレッスンやスキー上達法の本を買
い練習しました。健康の意識は全くなく上達しなかったの
です。しかし飽きっぽいのか運動神経が鈍いのか買った甲斐は
無しでした。幼い頃から身体は丈夫だったので医者にかかる
事は少なかったが、唯一留意したのは18歳で眼病を患い医師
から「癌は21世紀には治療法も解明されるが緑内障はその先
だろうから注意するように」と言われました。祖父、父、叔
父と親戚縁者は皆胃がんでこの世を去りましたので、私も同
じDNAだから40歳頃から胃癌検診は必ず受けました。これ
が健康法だったかと思いました。ところが癌検診に異常なし
で安心していたら、医師の言っていた通り片眼の緑内障が悪
化し手術したが正常の眼の十分の一しか見えなくなり落ち
込みました。タバコは成人前から64歳まで喫煙。禁煙したの
は偶然行った肺検診でした。そこで初めて「貴方の肺年齢は
95歳。病名 COPD、即禁煙が良いです」と言われタバコとラ
イターを捨てました。家族から何度も禁煙してと言われたが
一度も実行しなかった。あと数年で、外出時には携帯用酸素
注入器でと言われ実行。年齢の回復は禁煙と適度の運動なの
で、多摩湖周辺の2時間ウォーキングを続けたら88歳まで回
復しました。なんとか「広場 150号」までに呼吸機能が普通
になる事を期待し、合わせて右眼が正常のまままで推移する事
を信じて、日々のウォーキングは実行しています。



むさし野俳句会（二十八年十一月）川越吟行作品集抄

遠山の稜線白く冬めけり	宮本 信生	秋灯や衣のこすれる化粧の間	白神 恵子
酌み交はず五百羅漢や小鳥来る	荒幡千鶴子	菊まつり薔ばかりの真田城	高梨 千代
毎日が少しおしやれに冬紅葉	飯泉 陽子	湯さめして母の小言の聞こえさう	高橋三加子
秋深し仏の前におづくまる	井出 昇	八方に広がる大樹小鳥来る	高光 泉
喜多院の書院鎮もる冬隣	海老澤愛之助	横書きの先師の句帳冬の展	利根川啓一
蔵屋根の明るく淋し時雨かな	粕谷のぼる	喜多院の高き庇や菊まつり	中嶋 弘子
審査待つ懸崖菊の孔雀めく	河瀬 俊彦	薄紅葉どろぼう橋を粧へり	中村 直子
耳大羅漢ひしめく秋の声	小林 貞夫	濡れそぼつ子連れの羅漢秋深し	橋本 佑子
庭隅の光悦寺垣つはの花	小林 典子	喜多院の縁側に座し秋惜しむ	平栗 彰子
時雨のるや枯山水の朱き橋	佐藤 八郎	境内の樹々に幕張り菊花展	鈴木 征子
			鈴木 すぐる



《編集後記》

▼倶楽部創設とともに刊行された広報紙「広場」は100号を迎えました。発刊に向けて尽力された先輩諸兄姉に心から敬意を表します。▼私にとって「ところざわ倶楽部」は、まさに人生の勉強の場であると思っています。様々な経験をされてきた皆様方と会話し議論し痛飲しながら人情の機微に触れることが出来ました。今後とも積極的に「倶楽部・サークル」へ参加したいと思っています。▼4年間広報部員として貴重な経験をしました。PCが不慣れな私はPCを睨みながら人差し指で入力していましたが、今は何とか両手で打てるようになりました。池田新八郎先輩も定年後にPCを学ばれたそうです。彼は前向きにトライすれば「何とかなるよ」と言って励ましてくれました。なるほど何とかなって来ました。▼自分にエールを “人生は挑戦だー！ゴール目指してトライだ！トライだ！トライだー！”

おあと（10期）がよろしいようで。（仲山 )
「広場」問合せ 海老澤愛之助 (04-2922-0259)

川柳⑮ 課題「思ひ」 作品発表 中島峯生 選

かあさんや思いの丈は富士山よ	丘の河童
片思いまたダメでした同期会	突拍子
思い出すビビッときたあの時を	庵閑子
歩く会じの後追い汗だくに	どうし
強すぎる思ひは愛を遠ざける	海さとる
測れない思ひの教で青春と	りんご好き
山茶花は椿色には染まれない	海さとる
終活が気にはなっても今日も行く	りんご好き
お願いね妻の肩揉む濡れ落ち葉	丘の河童
医者行かず女優で決める風邪薬	突拍子
鼻風邪に外出禁止老いを知る	庵閑子
団らんで解け方違う屋根の雪	方声

次回の課題 「印象」又「自由句」 12月20日締め切り
担当 中島まで

宛先 mh-naka@jcom.home.ne.jp FAX04-2928-1161